

## はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介します。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介します。

第四回目は、第5代社長岡田完二郎から受け継がれてきた言葉をご紹介します。

## 1. 富士通の中興の祖、第5代社長 岡田完二郎

1959年（昭和34年）11月、富士通信機製造（株）の第5代社長に古河鋳業（株）社長や宇部興産（株）副社長を歴任した岡田完二郎が就任します。

岡田は、エレクトロニクスについては全くの素人でしたが、専門技術者でさえ難解な専門書「半導体とトランジスタ」を数十回にわたって読破し、電子工業という事業の将来性を認め、当社が「Communications & Electronics（通信と電子）の富士通」として成長していく基盤を育て上げました。その活躍により、富士通の中興の祖と言われるようになりました。

1960年代、日本は高度経済長期にあり、1964年（昭和39年）には、東海道新幹線の開通や東京オリンピックの開催、1966年（昭和41年）には、今でも国民的テレビ番組である「笑点」の放送開始など、人々の暮らしや価値観が大きく変わっていく時でした。

## 2. 限りなき発展

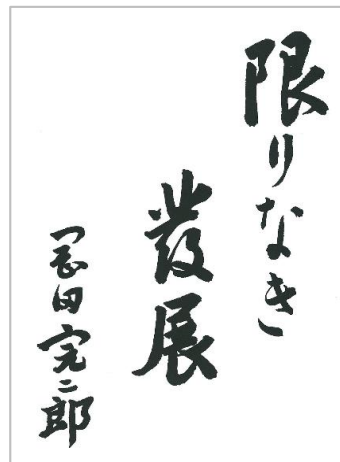
1962年（昭和37年）初頭、岡田は「限りなき発展」を合言葉に積極的経営姿勢を示し、次のように所信を表明しました。

「この大きな日本経済において当社が全部の需要を開拓し満たしているはずはない。まだ掘り出されていない需要の余地はうんとあるのだから、われわれの努力次第でどんどん発展できるのである。ただし発展といっても調和のとれた安定した発展でなければならないことはいまでもない。【中略】安定成長と安定的発展を目指していけば、発展には限りはないのだから、会社はますます良くなるだろう。これから“限りなき発展”という言葉当社を代表する言葉としていこうではありませんか。そしてそれはたゆみなき技術革新と販路開拓の上に実現されていくであります。」（「富士通ニュース」1962年（昭和37年）5・6月号）

時代は大きく変わり、デジタル・テクノロジーが普及した現代、当社は、お客様が持つ事業のノウハウと富士通のテクノロジーのノウハウを組み合わせ、イノベーションを実現し、お客様とともに発展し続けたいと考えております。



第5代社長岡田完二郎



色紙に筆墨した言葉

### 3. 質はどこでもものを云う

1965年（昭和40年）頃からは、通信機器だけでなくコンピュータも社会システムとして利用されるようになりました。それに伴い、当社のすべての製品には、部品一つひとつからますます高い信頼性が要求されるようになる状況の中で、1966年（昭和41年）から全社運動としての「高信頼性運動」が始まりました。この運動に際し、岡田は「品質こそすべてに優先する」とし、「質はどこでもものを云う」という言葉を色紙に筆墨しました。また、「高信頼性運動」の実施に当たって、次のようなメッセージを発信しました。

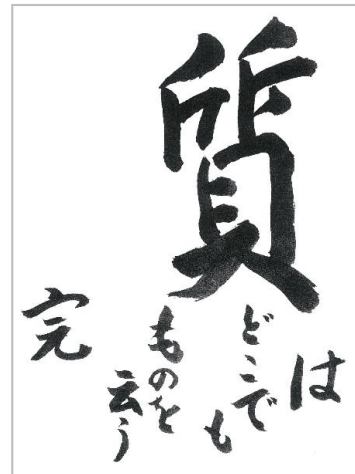
「当社では開発、製造から納入、サービスに至るあらゆる段階に於いて単に欠陥をなくすというだけでなく、更に一歩前進して「信頼性を高める」ことに総力を結集し、市場の要請と当社に寄せられている信頼に応えてゆく必要がある。これは従業員一人一人の理解と努力があって初めて達成されるものであり、従業員の意欲と能力を最大限に発揮してより信頼度の高い製品を市場に送り出すための総合的な運動としてここに「高信頼性運動」を展開するものである。」（1966年（昭和41年）11月）

富士通は、社会における富士通グループの存在意義、大切にすべき価値観、および日々の活動において社員一人ひとりがどのように行動すべきかの原理原則を示した“FUJITSU Way”の中の企業指針である「大切にします」の項目で、「品質」について「お客様と社会の信頼を支えます」と定めております。

これからも、開発・製造部門だけでなく全ての部門で改善に取り組み、製品・サービス・お客様対応の品質向上に取り組んでまいります。



富士通アーカイブズ展示エリア



色紙に筆墨した言葉

### 4. 富士通の歴史見学施設

富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しください。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。